

平成28年度事業実績について

安全で商品性の高い農産物の安定供給と生産性の向上を図るため、関係機関、団体と密接な連携を図りながら、農薬の安全・適正使用の推進を始めとして、効率的な病虫害防除の推進、新農薬の普及性の実証及び農業航空防除等の各種事業を推進した。

事業実施の概要

1 農薬安全・適正使用及び効率的な防除の推進

安全・適正使用に繋がる農薬の危被害防止適正な農薬使用と病虫害の発生状況に応じた効果的な病虫害と防除を推進するため、防除業者、農薬販売業者及びJA・県等の指導者などを対象とする各種研修会を開催した。

また、難防除病虫害や新奇病虫害等の防除対策資料を作成・配布するなど、防除情報や技術対策情報の提供に取り組んだ。

主な実施項目

(1) 危被害防止研修会の開催

対象者：防除業者、農薬販売業者、ゴルフ場関係者、農薬管理指導士等

研修会の内容：

- ① 農薬の安全使用と危被害防止対策（公益社団法人緑の安全推進協会）
- ② 上手な農薬の選び方と使い方（県農業経営支援課）
- ③ 毒物及び劇物取締法（県中央、都城、延岡保健所）

表1 開催概要

開催月日	開催場所	参加者数
1月11日	宮崎市（JA・AZMホール）	164名
1月12日	延岡市（延岡卸商業センター会館）	43名
1月13日	都城市（ウェルネス交流プラザ）	100名
合	計	307名

(2) 植物防疫研修会の開催

(第1回)

開催日：平成28年9月1日

場 所：県立農業大学校 草原教室

対象者：市町村、JA、経済連、農薬製造メーカー、農薬卸組合、
種苗協会宮崎県支部、農薬小売商組合、県 合計 71名

研修会の内容：

- ① 植物防疫に関連する施策
 - ア 宮崎県の植物防疫関連施策 (県農業経営支援課)
 - イ 環境保全型農業と五輪 (県農業経営支援課)
 - ウ ICMとGAP (県農業経営支援課)
- ② 持続的農業技術の取り組み
宮崎方式ICM技術の現地での取り組み事例 (県児湯農林振興局)

(第2回)

開催日：平成29年3月9日

場 所：宮崎市 県総合農業試験場 研修棟

対象者：市町村、JA、経済連、NOSAI連、農薬製造メーカー、
農薬卸組合、農薬小売商組合、県 合計 121名

研修会の内容：

- ① 県内で採取された殺虫剤抵抗性関連遺伝子型が異なるワタアブラムシ
に対する各種殺虫剤の殺虫効果 (県総合農試生物環境部)
- ② 診断依頼から見る病害虫の発生動向
(県総合農試生物環境部)
- ③ マンゴーにおけるスワルスキーカブリダニを利用したチャノキイロ
アザミウマ防除 (県総合農試亜熱帯作物支場)
- ④ みやざき版 少量農薬散布機の基本的性能と防除効果
(県総合農試茶業支場)
- ⑤ 本県への侵入を警戒する病害虫等
(県病害虫防除・肥料検査センター)
- ⑥ 県内におけるチャノキイロアザミウマ新規系統(C系統)の分布状況
(県病害虫防除・肥料検査センター)

(3) 宮崎県農薬管理指導士新規養成研修の開催

開催日：平成28年11月22日

場 所：宮崎市 県総合農業試験場 研修棟

対象者：農薬取扱者(JA、農薬販売店等)、防除業者、ゴルフ場職員等92
名が受講・受験し、76名が認定された。

研修会の内容：

- ① 植物防疫一般(植物防疫・農薬行政) (県農業経営支援課)
- ② 関連法令(農薬取締法、毒物及び劇物取締法)
(県農業経営支援課・医療薬務課)
- ③ 病害虫、雑草防除等 (県総合農試作物部・農業経営支援課)
- ④ 農薬管理指導士の任務 (県農業経営支援課)
- ⑤ 農薬一般(農薬の種類、特性等) (県総合農試生物環境部)
- ⑥ 農薬安全性評価、各種基準 (県総合農試病害虫防除・肥料検査課)
- ⑦ 農薬の安全使用、危被害防止対策等 (県農業経営支援課)

- (4) 病虫害発生予察情報の印刷・配付
 ・ 23回 (2, 620部)
 予報 12回
 注意報 4回
 防除情報 7回
- (5) 農薬適正・安全対策資料及び防除対策資料の作成・配付
- | | |
|---|---------|
| ① 農薬適正・安全対策資料
(農薬危被害防止研修会資料、植物防疫研修会資料) | 500部 |
| ② 農薬安全・適正使用啓発資料
サトイモ疫病対策マニュアルH29年増補改訂版 | 15,000部 |
| ③ 病虫害難防除対策資料
アリモドキゾウムシ防除啓発資料 | 2,000部 |
| ④ 平成29年版病虫害・雑草防除等指導指針 | 1,100部 |
| ⑤ 農業航空防除危被害防止・安全対策資料 | 50部 |
| ⑥ 農薬展示ほ成績書 | 100部 |
- (6) 難防除病虫害防除技術の実証
- ① 夜行性ヤガ類のキイチゴへの食害防止のために、ヤガ類の行動制御に効果がある波長を持つLED電球を用いた新たな防除技術の展示ほを設置して啓発、活用を図った。
 - ② 平成26年に県内での発生を初確認したチャトゲコナジラミが、新たに西諸県地区で発生したため、発生茶園の抜根と防除及び茶園周辺のツバキ科・畦畔茶園の茎葉除去・防除、近隣茶園の調査・防除を体系的に実施する展示ほを設置して、効果確認を行った。

2 農薬展示ほ設置事業

県病虫害・雑草防除等指導指針や地域の防除暦策定の資料とするため、西臼杵支庁・各農林振興局(農業改良普及センター)等関係機関の協力を得て、新たに登録あるいは適用が拡大された農薬を中心に展示ほを設置し、防除効果等の検討を行った。

表2 農薬展示ほ設置状況 ()は前年度

	部 門	農 薬 数	展 示 箇 所 数
農薬	水 稻	45 (49)	70 (82)
	茶	2 (6)	5 (18)
	野 菜	48 (61)	85 (90)
	花 き	12 (13)	19 (31)
	果 樹	6 (14)	15 (34)
	飼 料 作 物	1 (1)	1 (2)
	飼 料 イ ネ	5 (12)	11 (21)
資材	野 菜	1 (2)	1 (3)
	茶	1 (0)	1 (0)
	果 樹	1 (0)	1 (0)
	花 き	2 (0)	2 (0)
合 計	124 (158)	211 (281)	

表3 展示ほ検討会の開催状況

() は成績検討会との同時開催

部 門	現地検討会	成績検討会	設置検討会	合計
水稲・飼料用イネ	3 回	2 回	1 回	6 回
野 菜		2	1 (1)	2 (1)
花 き		1	1 (1)	1 (1)
果 樹		1	1 (1)	1 (1)
茶		1	1 (1)	1 (1)
飼 料 作		1	1	1
合 計	3 回	8 回	6 (4) 回	17 (4) 回

表4 平成29年版「宮崎県病害虫・雑草防除等指導指針」採用農薬数

部 門	殺虫・殺菌剤	除 草 剤
水 稲	10	15
飼料用イネ	0	2
野 菜	30	0
花 き	11	0
果 樹	9	0
茶	3	0
飼 料 作	0	1
合 計	63	18

3 農薬展示ほ事故対策補てん事業

農薬展示ほの実施によって発生した事故に係る損害の補てんを行うための事業であるが、適正な管理のもとで各農薬展示ほの設置が行われた結果、事故の発生はなかった。

・補てん金支払実績 無し

4 農業航空事業

航空防除を安全かつ円滑に実施するため、事業実施主体、航空会社及び農薬会社等と危被害防止並びに効率的な事業推進について協議を行い、安全対策の徹底を図った。その結果、平成28年度は事故もなく計画どおり終了した。

また、農薬の登録失効により、平成25年度から有人ヘリ防除を中止せざるを得なかった地域と品目（須木の栗）を対象に、農薬製造メーカーよる適用拡大申請のための薬剤散布試験を実施して、データ収集を行った。

(1) 防除面積

作物名	実施団体名	実施面積	対象病害虫
水 稲	こばやし農業協同組合	200ha (前年220ha)	ウンカ類、カメムシ類、 いもち病

(2) 農薬登録適応拡大支援

- ① 地区名 小林市須木
- ② 作物名 くり
- ③ 実証内容 面積：20a 使用薬剤：MEP乳剤
- ④ 対象病害虫 モモノゴマダラノメイガ

(3) 危被害防止安全対策について

事業開始前に航空防除実施地区において危被害防止対策研修会を開催し、危被害の防止対策と飛散防止等の安全対策について協議した。

① 農業航空事業危被害防止等対策会議（平成28年7月26日）

場 所：小林市須木庁舎

参加者：実施団体、航空会社、農薬メーカー、小林市 他関係機関 18名

内 容：航空防除に伴う危被害防止対策について

航空機運航上の安全対策について

散布農薬の特性と安全対策について

(4) 平成28年度農林水産航空事業有人ヘリコプター推進事業

有人ヘリを利用した事業を安全かつ効率的に実施するため、一般社団法人農林水産航空協会から助成を受け、実施組織の体制整備及び安全対策の普及・啓発を行った。

交付額：JAこばやし（水稻） 40,000円

須木栗振興協議会 10,000円

内 容：危被害未然防止等会議の開催、安全対策広報指導活動、地区別座談会での資料配付 等

5 農業航空事故対策補てん事業

航空防除事業は、危被害防止等の安全対策には細心の注意を払い実施しており、適正な管理のもとで航空防除が実施された結果、事故の発生はなかった。

・補てん金支払実績 なし

6 宮崎県植物防疫60周年記念事業

宮崎県植物防疫60周年記念誌「宮崎県植物防疫のあゆみ」を発刊した。